

# NEWSLETTER



日本保健物理学会  
JAPAN HEALTH PHYSICS SOCIETY

No. 68 December, 2013

## 目次

活動報告.....	2
若手研究会.....	2
学友会.....	6
専門研究会活動報告.....	7
体外計測に関する標準計測法の策定に関する専門研究会.....	7
水晶体の放射線防護に関する専門研究会.....	7
編集委員会.....	8
国際対応委員会.....	8
放射線防護標準委員会.....	10
専門資格委員会.....	12
行事予定.....	12

※本NL内に記載してあるメールアドレスを使用する場合は、(at)を@に置き換えて下さい。

---

## 活動報告

### 若手研究会

本号では、ニュースレターNo. 67 (2013年8月30日発刊)以降の若手研究会の活動の中から、①集中講義「放射線によって誘発される血管疾患と白内障について考える」(8月24-26日、大阪)、②環境放射能・放射線夏の学校(9月10-13日、京都)、③千葉市科学フェスタ2013(10月12-13日、千葉)について、若手研究会メンバーの参加報告をお届けします。

#### ①平成25年度第一回集中講義「放射線によって誘発される血管疾患と白内障について考える」に参加して

文部科学省復興対策特別人材育成事業「被ばくの瞬間から生涯を見渡す放射線生物・医学の学際教育」主催、若手放射線生物学研究会企画平成25年度京都大学原子炉実験所専門研究会共催

平成25年8月24日から26日にかけて、京都大学原子炉実験所(大阪府泉南郡熊取町)において、文部科学省復興対策特別人材育成事業「被ばくの瞬間から生涯」を見渡す放射線生物・医学の学際教育」主催、若手放射線生物学研究会企画平成25年度京都大学原子炉実験所専門研究会共催による、平成25年度第一回集中講義「放射線によって誘発される血管疾患と白内障について考える」が開催された。2011年のソウル声明において、白内障の線量限度が現行の150 mSv/年から、「5年平均20 mSv/年かつ50 mSv/年」へと大幅に引き下げられる勧告がなされ、ICRP Publication 118において、その根拠が示された。この線量限度の変更に伴い、水晶体の線量限度を超える作業員が現れ、作業が制限される可能性がある。また、水晶体の放射線影響を議論する際、放射線防護の側面だけでなく、放射線に対する生物影響に関する知見が必要となる。

本研究会では、放射線生物、放射線防護、疫学や医学など、広い分野の専門家が一同に会し、各分野の白内障に関する課題を紹介するとともに、その内容について議論がなされた。

初日(8/24)は、放射線白内障の初級向け講義として、放射線防護や疫学の研究を専門とする、4人の先生から講義が行われた。まず、藤通氏(電中研)よりICRP Publication 118の概要の説明があり、加えて、水晶体線量限度設定の経緯と、今回の線量限度引き下げに伴い生ずる課題について説明がなされた。その後、鍊石氏(八千代病院)より、今回の線量限度設定の根拠となる、最新の知見を取り入れた疫学研究の結果について紹介があった。横山氏(藤田保健大)からは、放射線防護の観点から、線量限度引き下げに伴う、作業員の水晶体線量の把握、線量低減方法の検討の重要性について説明があった。藤井氏(京都大学原子炉研究所)からは、白内障発症のメカニズムとして、水晶体内のタンパク質の構造変化が考えられるとし、その研究内容について説明があった。

2日目(8/25)は、初級向け講義(放射線血管疾患)、一般演題及び、上級向け講義と3つのカテゴリに分け講義が行われた。ICRP Pub. 118では、心疾患と脳血管疾患のそれぞれについて、新たなしきい線量(0.5 Gy)を設けており、放射線血管疾患は、白内障とともに注目が集まっている。ICRP Pub. 118では、疫学的知見のレビューを行い、さらに動物実験等のデータも踏まえて発症機構に関する情報を整理しており、伴氏(東京医大)より、その内容について説明があった。土居氏(放医研)からは、「生物と疫学で使う統計学」と題し、統計解析処理に関する説明があった。統計学は放射線生物分野だけでなく、広い研究領域で必要となる学問である。土井氏の講演は内容も非常に分かりやすく、会場からの要望もあって、昼休みを跨

いでの長時間にわたる講演となった。

一般演題では、主に放射線生物学を専門とする若手研究者より、各々の研究内容について発表があった。発表はどれも完成度が高いもので、会場からの質疑も非常に活発に行われ、非常に有意義な時間となった。著者も、各研究内容についてより深く聴きたいと感じた。

さらに、上級向け講義では、各分野の先生方より、より専門的な内容について講演があった。佐藤氏（茨城医療大）からは、「医療における水晶体線量評価」と題し、医療現場における水晶体被ばくの評価法や防護方法について説明がなされた。竹鼻氏（慶応大）からは、疑似水晶体であるレントイドボディの研究が紹介された。水晶体の再生という壮大な研究内容は非常に興味深いものであり、会場からの質問も多くあった。

3日目（8/26）は放射線血管疾患の上級向け講義として、ICRP Pub. 118 の内容や、疫学調査、心血管疾患のメカニズムといった専門的な内容にわたって、各先生方より講演があった。

今回の勉強会では「放射線によって誘発される白内障、血管疾患」というテーマに対して、非常に多分野にわたる研究内容を聴講することができた。水晶体の線量限度の引き下げに伴い、様々な分野の研究者から、水晶体・白内障に注目が集まっている。放射線に起因する白内障発症原因は、完全に明らかにはなっていないが、放射線生物や疫学研究の結果より、徐々にその原因が解明されつつある。そういった他分野の最新の研究を知っておくことで、水晶体被ばくに関する放射線防護の考え方の一助になるのではないかと考える。

最後に、本企画の運営に尽力くださった、京都大学原子炉実験所と人材育成事業、若手放射線生物学研究会の関係者の方々に深く感謝いたします。



平成 25 年度第一回集中講義／集合写真

(原子力機構 森下祐樹)

---

## ②「環境放射能・放射線夏の学校 2013」に参加して

本稿は平成 25 年 9 月 10 日から 12 日まで開催された環境放射能・放射線夏の学校の参加報告である。本学校は「アカデミックなレベルと和気あいあいさを高度に保ちながら個人の理解を深めること」を主旨にしており、環境放射能・放射線についてオープンに議論できる数少ない場の一つである。第 11 回目となる本年度の学校は京都大学原子炉実験所及び犬鳴山温泉（大阪府泉佐野市）で開催され、26 名が参加した。学校では参加者全員によって研究発表が行われ、叱咤激励を含む活発な議論がなされた。テーマは設けられていなかったものの、放射線生物影響の現状と福島第一原子力発電所事故（以下、1F 事故）初期の環境影響について理解できるように工夫されていた。

講演は 6 件で、木野内忠稔先生「とある元素の生物生理学」、高橋千太郎先生「放射線生物影響のわかっていること・わかっていないこと」、今中哲二先生「飯館村の放射能汚染調査と初期被曝量評価」、山澤弘実先生「放射性物質の大気拡散と事故対応」、齊藤眞弘先生「トリチウムの体内代謝と生物影響」、高橋知之先生「原子力施設の環境影響評価とその不確実性」の演題で発表された。学生を含む若手研究者の研究発表では大きく分けて福島第一原子力発電所事故に関するテーマと放射性物質のトレーサ利用に関するテーマの報告があった。また藤原慶子氏からは「保健物理分野における若手・学生の活動」が報告された。筆者は環境モニタリングデータを用いた 1F 事故時の放射性物質の大気放出率の推定結果とその不確かさについて発表した。以下に講演内容の概要を示す。

木野内先生からは、「とある元素」= ホウ素の植物中での働きを放射線イメージングで調査する研究が紹介された。高橋（千）先生からは放射線生物影響の研究の到達点と不確かさに関してバイスタンダード効果等を例に講義がなされた。今中先生からはチェルノブイリの事故当時の様子と廃炉の進捗状況が初めに紹介された後、飯館村初期被曝プロジェクトチームで得られた空間線量率分布の推定結果が報告された。山澤先生からは大気拡散モデルの計算結果の有効性と限界を概観した後、1F 事故時に SPEEDI を使って知り得た大気拡散状況が報告された。トリチウム研究の第一人者の齊藤先生からは、人体組織に含まれるトリチウムの量とその分布の実験的評価に関する研究が紹介された。高橋（知）先生からは放射性核種の環境影響評価手法の概念と、評価における不確かさの考え方の講義がなされた。

冒頭でも述べたとおり本学校はオープンに議論できることが最大の特徴であり、低線量放射線の生物影響と 1F 事故時の緊急時対応のあり方について活発な議論が展開された。低線量被ばく影響評価に関して、生物学的な手法からは高感度検出系の導入により放射線に対する生態応答を遺伝子のレベルで解析が可能になりつつあり、疫学的手法では蓄積データから現在も新しい知見が得られていることが理解できた。筆者は、自然のゆらぎの中に埋没する程の低レベルの放射線影響は不確かさが大きく難しい課題であるものの、新しい知見を着実に積み上げていくことこそが一番の近道であると感じた。一方、1F 事故時の緊急時対応に関しては、条件付きであるが大気拡散計算の結果は緊急時に意思決定の判断材料を提供可能であったことを理解できた。条件付きとは、大気拡散現象を理解し、緊急時に入手可能な情報には制限があることを予め想定することで、不確かさを含めて数値計算結果を解釈することを指す。環境放射能の研究に携わる筆者は、物理現象を理解し手段に振り回されることの無いように今後も謙虚に研究と向き合う決意を新たにした。また情報交換会では若手研究者と親睦を深めることができ、夏の学校の参加を通じて有意義な時間を過ごすことができた。2011 年に名古屋大学が中心となり主催した夏の学校「放射性物質の環境移行に関する研究の現状と課題～大気圏・地圏・水圏で何が起きているのか～」では参加者 22 名で 10 件の基調講演をベースに、



---

各圏からみた福島での環境汚染の現状と問題を議論した。そこから2年空けて夏の学校が開催され、環境放射能について議論できたことを大変嬉しく思っている。次回開催時期は未定であるが、本稿を呼んで関心をもたれた方々は来年度以降に是非参加して頂きたい。

最後に緑豊かな会場で夏の学校に集中できる環境を準備して頂いた主催の京都大学原子炉実験所の環境放射能・放射線夏の学校実行委員会メンバーに御礼申し上げたい。また共催の日本保健物理学会、日本放射化学会、日本原子力学会（保健物理・環境科学部会）に感謝したい。

(名古屋大・工 平尾茂一)

### ③「千葉市科学フェスタ 2013」に参加して

平成25年10月12日から13日の間に千葉市科学フェスタが千葉市科学館 Qiball(きぼーる)にて催された。若手研究会・校友会からは昨年度に続いて、12日に9名、13日に7名が参加した。出展したブース「放射線(ほうしゃせん)についてみんなで一緒に考えてみよう!」の内容は以下の通りである。

①簡易測定器による放射線測定: NaI シンチレーション検出器やGM計数管式サーベイメータを用いた放射線の簡易計測を実施した。日常生活の中に放射性物質がごく当たり前に存在しているということを伝えることができた。特に食塩(NaCl)を塩化カリウム(KCl)で置き換えた減塩の塩には放射性のカリウム(<sup>40</sup>K)が含まれているということに驚かれた方が多かった。

②汚染箇所の特定ゲーム: 放射線源を仕込んだ箱の中からサーベイメータを用いて場所を特定するゲームである。サーベイメータを初めて扱うであろう子供たちが楽しみながら放射線源を探すと同時に、サーベイメータを使って見えない線源の場所を特定することの難しさを体感していた。

③蛍光塗料を用いた皮膚除染デモ: 蛍光塗料を放射性物質に見立てて、歯ブラシと食器用中性洗剤を用いて除染を行うといった内容である。放射性物質が洗浄によって容易に落とせるということを伝えることができた。

④暮らしの放射線Q&Aサイトの紹介: 暮らしの放射線Q&Aサイトでは以前、公衆から寄せられた質問に回答する活動をしており、今年の6月に書籍として出版された。その書籍やWebサイトの紹介である。放射線Q&Aについて興味を持たれた方もおり、質問もたくさん頂いた。これからも放射線に関する公衆の疑問は絶えることはない。このため今後とも公衆の疑問に回答していくことは重要であると考えられる。

2日間のブース出展を通じて、来客者は親子連れが多く、子どもにはサーベイメータを使った汚染箇所の特定ゲームが好評であった。子供は体験できる内容の方が興味を持ちやすいため、このような体験できるゲームは、ぜひともこれからも続けるべきだと思った。理系離れが進んでいる今、千葉市が子供たちや公衆にこうしたイベントを展開することはとても嬉しいことである。特に、将来の世代に当たる今の子供たちに科学に対して興味を持ってもらうことは今後の世の中に必要なことであると感じた。学生としても、このような催しに参加できることは滅多になく、貴重な経験をする事ができた。今後とも、このような催しに参加する機会があれば積極的に参加したいと思った。

最後に本イベントの企画をされた千葉市、千葉市教育委員会、千葉市科学館そして若手研究会に感謝を申し上げます。



千葉市科学フェスタ 2013 参加者 (2日目)

(新潟大大学院 神田 直之)

(新潟大大学院 山田 龍太)

## 学友会

### 第7回日本保健物理学会学生発表会

保健物理学会学友会では2007年より学生を主体とした「日本保健物理学会学生発表会」を行っています。学生同士での自由闊達な議論，学生の知識を充実させることを目指し，幅広い分野から参加学生を募集します。

皆様の研究室，講座あるいは研究所の学生の参加をお待ちしております。

会場準備等の都合上，参加ご希望の方は下記連絡先までご連絡を頂きたいと思っております。

日付：平成25年12月12日（木），12月13日（金）

場所：新潟大学五十嵐キャンパス

12日：物質生産棟演習室161-1

13日：ベンチャービジネスラボラトリー（VBL）サイエンティフィックビジュアルライゼーション室

内容：学生による口頭発表

若手研究会セッション

基調講演

企業プレゼンテーション

ポスター展示（都合により発表に参加できない方からの研究紹介または研究室紹介もお待ちしております）

- 
- 日本保健物理学会の正学生会員あるいは準学生会員，その他保健物理分野・原子力分野に関わる学生
  - 十分程度の口頭発表とする
  - 発表内容は未完成の研究についてでも可
  - 学会発表の経験のない学部生あるいは院生からの発表を奨励
  - 発表内容は本会同様，原子力，計測，医療，環境，生物等，広く募集
  - 正学生会員の参加者のみに旅費の一部支給
- 予稿提出先

f13b085d(at)mail.cc.niigata-u.ac.jp

★参加申し込み方法：

お名前，所属，学年，連絡先（E-mail），専門分野（環境放射能，放射線計測，線量評価，放射線生物，医療放射線など）を明記し，11月15日（金），までに各々の大学の代表者の方にお申込みいただくか，下記メールアドレスに直接お申し込みください。

f13b085d(at)mail.cc.niigata-u.ac.jp

（新潟大学 山田 龍太）

## 専門研究会

### 体外計測に関する標準計測法の策定に関する専門研究会

ホールボディカウンタ及び甲状腺モニタを初めとした体内放射能測定装置に関する国内標準規格（JIS）の原案作成が開始された。この作業には、当専門研究会のメンバーの他、国内の関連有識者が参画している。

今後、数回の JIS 原案作成委員会での審査を経て、来年度中に国内規格の整備が完了する予定である。

同規格は、国際電気標準会議（IEC）が 2004 年に策定した IEC61582 を参考にしているが、これに定める体内放射能装置の技術的仕様に係る要件が必ずしも国内の実状に整合しておらず、関係者間で議論している。

将来的には、体内放射能測定装置の校正基準となるファントムの仕様やトレーサビリティの確保などについても具体的な検討が必要になるとと思われる。

（放医研 栗原 治）

### 水晶体の放射線防護に関する専門研究会

平成 25 年 6 月 24 日（月）に保健物理学会研究発表会開催に合わせて第 2 回専門研究会（公開及び関係者のみ）に引き続き、9 月 27 日（金）に第 3 回専門研究会を開催した。第 3 回専門研究会では、ヨーロッパで医療スタッフに対する放射線防護の最適化に関するプロジェクト（ORAMED）及び ICRU/ICRP での線量評価に関する検討の現状、原子力分野、特に再処理施設における作業員の被ばく及び放射線防護の現状と取り組み、福島第一原子力発電所の作業員の被ばく及び健康管理調査の現状について、各委員より報告があった。

作業員の被ばくの現状については、医療分野のみならず、原子力分野においても ICRP の新しい水晶体の線量限度を適用する場合、限度を超えるおそれのある作業員もいることから、今後はこれらの作業員に対す

る被ばく低減、防護策の検討を開始しているとのことであった。また、福島第一原子力発電所関連作業者については、わが国特有の課題である。

今後は、これまでの専門研究会での報告を合わせて、中間報告として、水晶体の放射線防護の現状について取りまとめていく予定である。

(藤田保健衛生大学 横山 須美)

## 編集委員会

11月12日に平成25年度第2回会合を開催し、論文審査状況や「保健物理」誌(第48号4巻)の編集状況について確認しました。次回は2月21日に第3回会合を開催する予定です。

なお、第48号1巻から4巻に掲載された論文が平成25年度日本保健物理学会賞(論文賞)の対象となります。論文賞は、一次選考を編集委員会が行いますが、現在この選考作業を進めているところです。その後、編集委員会の推薦を受諾する著者が推薦書を作成、提出することになっています。

また、編集委員会ではニュースレターや「保健物理」誌の魅力ある誌面づくりを目指し、編集作業に取り組んでいるところです。英文記事や企画記事の充実はもちろんですが、例えば、シンポジウム等への参加報告については、プログラムの紹介や著者の感想が主体の記事はニュースレターに、講演の概要や議論の論点を中心に著者の意見が示された記事を「保健物理」誌に掲載することとしておりましたが、この観点がより明確になるよう意識した誌面づくりを目指しているところです。

会員の皆様の編集活動へのご理解とご協力をお願い致します。

### 2013-2014年度 編集委員会委員構成

委員長・担当理事 大越 実(原子力機構), 副委員長・担当理事 林 克己(日立製作所), 幹事 石森 有(原子力機構), 森泉 純(名古屋大), 佐藤 斉(茨城県立医療大), 布宮 智也(富士電機), 高田 真志(放医研), 藤田 博喜(原子力機構), 三上 智(原子力機構), 高橋 知之(京大原子炉), 反町 篤行(弘前大), 滝 剣朗(東京大学), 杉山 大輔(電中研), 牧 大介(千代田テクノル), Sergei Y. Tolmachev (College of Pharmacy Washington State University)

(編集委員会幹事 石森 有)

## 国際対応委員会

### 2013-2014年度 委員構成

職名	氏名	所属
委員長(理事)	杉山 大輔	電力中央研究所
副委員長(理事)	大越 実	日本原子力研究開発機構
幹事	荻野 晴之	電力中央研究所
委員	迫田 晃弘	日本原子力研究開発機構
〃	赤羽 恵一	放射線医学総合研究所



〃	飯本 武志	東京大学
〃	山外 功太郎	日本原子力研究開発機構
〃	阿南 徹	原子力安全技術センター
〃	中村 年孝	関西電力
〃	横山 須美	藤田保健衛生大学
〃	酒井 一夫	放射線医学総合研究所
〃	永田 英憲	三菱重工業株式会社
〃	佐々木 道也	国際放射線防護委員会 (ICRP)

#### IAEA 一般安全要件ドラフトへのコメント提出

IAEA DS457「Preparedness and Response for a Nuclear or Radiological Emergency」について、本学会員や関係委員会から頂きましたコメントを取りまとめ、国際放射線防護学会 (IRPA) へ提出いたしました。IRPA は、参加学会のコメント案を取りまとめた上で、IAEA へ提出いたします。本学会のコメントは、IRPA 提出コメントにほぼそのまま取り入れられました。

JHPS 提出コメントの詳細は下記でご覧になれます。

<http://www.jhps.or.jp/jhp/wp-content/uploads/2013/10/DS457.pdf>

#### 中国放射線防護学会 2013 年年会 (2013 年 10 月 9～13 日) への参加報告

中国放射線防護学会 (CSRP) からの 2013 年年会における講演要請を受け、小佐古学会長と杉山国際対応委員長が参加し、主に本学会の第 1 期福島プロジェクト提言報告書 (2013 年 4 月 17 日) に基づき、福島事故後の放射線防護の課題について発表を行いました。中国の専門家、同じく本会議に参加した米国 HPS 会長の Darrell Fisher 氏らと、今後の課題として、リスクレベルに応じた放射線防護・管理の必要性を共有しました。



写真 1 小佐古会長講演



写真2 会場にて

(左から、杉山国際対応委員長、潘自强 CSRP 会長、Darrell Fisher 米国 HPS 会長)

#### 第4回アジア・オセアニア放射線防護会議 (AOCRP-4) の案内

2014年5月12日から16日までの5日間、マレーシア・クアラルンプールで開催の第4回アジア・オセアニア放射線防護会議(AOCRP-4)につきまして、アブストラクトの締め切りが2013年12月30日まで延期されました。

会員各位におかれましては、積極的なご参加をいただければと思います。

AOCRP-4 ホームページ: <http://www.aocrp-4.org>

また、AOCRP-4への参加につきましては、日本保健物理学会より、若手研究者への助成を検討しております。助成希望者は、期限までにAOCRP-4サイトでアブストラクト提出をお願いします。助成の詳細については改めて案内がございます。

(電中研 杉山大輔)

## 放射線防護標準化委員会

### 第2回放射線防護標準化委員会・専門部会

1. 日時：平成25年10月7日(月) 15:00～16:30
2. 場所：東京大学 工学部12号館別館3F会議室(326)
3. 出席：小佐古部会長、飯本委員、服部委員、山本(英)委員、近江委員、鈴木委員、金子委員
4. 議事概要

(1) 第1回専門部会議事録を確認、承認された。

(2) ガイドライン案の審議

内部被ばくの線量管理方法 ガイドラインおよび解説(案)について審議した。その結果、

①ICRP刊行物や放射線審議会基本部会中間報告書等からの引用部分を明確にする

---

②ガイドラインの背景や作業会の検討経緯を記したカバーページを作成し、これを本ガイドライン案に付する、こととした。

この結論をもって放射線防護標準化委員会に諮る提案がなされ、出席委員全員の挙手により可決された。

### (3) 作業会の進捗状況

#### + 職業人と公衆の安全・ICRP2007年勧告国内取入対応作業会

以下の2テーマについて作業中。

- ①放射線業務従事者の特殊健康診断の要否判定方法
- ②女性作業者の妊娠期間中の線量の管理方法

#### + 加速器放射化物に関する安全ガイドライン作業会

解説書の策定を中心に作業を進めている。

- ①放射化のメカニズム、発生装置の分類等については、文科省の旧クリアランス関連ワーキンググループ等に提出された資料を基本として整理する。
- ②加速器の分類とそれに基づく放射化物の分類について再検討が必要である。
- ③リスクに応じた管理、管理の必要性の判断、障害防止法で課せられた、法規制の枠組みでの管理についての考え方にも留意する

#### + 管理システム作業会

事故フォールアウトの影響を受けた次の事例における管理上の課題について検討している。

- ①汚染の恐れのない管理区域および非管理区域でフォールアウトの影響を受けた場合、設備・機器等の廃棄の取扱いはどのように判断すればよいか？(固体)
- ②施設で発生する液体廃棄物にCs-134/Cs-137が検出された場合、排出はどのように判断すればよいか？(液体)
- ③国が示した再利用の基準(年間0.01mSv)(参1)について、汚染検査用GMサーベイメータの指示で何CPM以下であれば満足するか？(再利用)
- ④現存被ばく状況及び計画被ばく状況における物品搬出管理に関する例題
- ⑤現存被ばく状況及び計画被ばく状況において、リスクレベルの管理に基づく物品搬出基準に適用すべき原理・原則

#### + 廃棄物作業会

次の例題を中心に検討を進めている。

- ①汚染土壌等の管理(現場保管、仮置き、中間貯蔵、輸送、処分、発生源別)
- ②建屋解体物の取扱い(原子力施設、研究施設)
- ③液体廃棄物の取扱い(管理)
- ④非管理区域等から発生する廃棄物の取扱い
- ⑤ステークホルダ関与

### 放射線防護標準化委員会メール審議

専門部会の決議を受け、「内部被ばくの線量管理方法のガイドライン案」を公衆審査にかける審議をした。その結果、賛成多数で同案は公衆審査(2013年11月6日～2013年12月6日)に諮られることになった。

(東京大学 飯本武志)

---

## 専門資格委員会 準備会

当学会には専門資格（技術士、放射線取扱主任者、医学物理士など）を所有する会員が多く所属しています。今まで学会として、全ての会員への情報提供と発表機会や専門研究会の機会の提供のみでなく、若手、学生の組織を設けたことによりそれぞれの活動が大きな力となってきました。今回これに加え専門資格保持者に興味のある分野の拡充や抱える問題の解決を通じてより魅力ある学会とするため、専門資格委員会を準備することが3月6日の執行理事会で確認されました。

6月25日に小佐古会長、日暮理事、岡村理事、阿部理事、林理事、川辺準備会幹事が出席し専門資格委員会準備会を開催しました。今後若手の委員の登用検討、委員会運営細則作成を行い、理事会で承認後専門委員会を立ち上げることとなりました。また講習会の計画、国際化の調査検討も含めた活動を行うことなどが議論されました。

11月5日の理事会では、「技術士制度・試験講習会」を日本原子力学会と共催で2014年2月1日に行なうことが報告されました。今後若手の委員を拡充し理事会承認後、来年早々に正式に専門資格委員会として活動を進める予定です。

会員の皆様からのご意見や活動の協力のお申出など、学会事務局（exec.off(at)jhps.or.jp）にお寄せいただければ幸いです。

（担当理事 日立 林 克己）

## 行事予定

### 保物セミナー

日時： 平成25年12月5日（木） 9:30～17:30

要旨： 福島第一原子力発電所の事故発生から2年半が過ぎ、これを契機に放射線に対する様々な研究成果が報告されています。そこで、今回は「テーマ1」では「放射線に対する生物学影響」について、「テーマ2」では「住民に対するリスクコミュニケーション」等についての最新の知見について報告して頂きます。さらに、テーマ3では、「福島復興への取り組みと放射線防護上の課題」という観点から、福島の現状について報告して頂きます。また、特別講演と致しまして、原子力規制庁 放射線規制室室長の南山力生氏に最新の行政指導についてもお話し頂きます。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。奮ってご参加ください。

主なテーマ：

テーマ1 「低線量放射線の人体影響」

特別講演 「最新の放射線安全行政の動向」

テーマ2 「東京電力福島第一原発事故とリスクコミュニケーション」

テーマ3 「福島復興への取り組みと放射線防護上の課題（Ⅱ）」

主催： 「保物セミナー2013」実行委員会

開催日時： 平成25年12月5日（木）9時30分～17時30分

（ボイリングディスカッションは18時00分～20時00分）

開催場所： 大阪科学技術センター 8階 大ホール

〒550-0004 大阪市西区靱本町1丁目8番4号



---

Tel. 06-6443-5320 Fax. 06-6443-5319

参加費： 5,000 円（ボイリングディスカッション参加者は別途 5,000 円）

※詳細は下記をご覧ください。

保物セミナー開催のご案内

<http://anshin-kagaku.news.coocan.jp/hobutsu2013annai131018.pdf>

保物セミナー2013 参加申込書

<http://anshin-kagaku.news.coocan.jp/hobutsu2013moushikomi130812.pdf>

連絡先： NPO 安全安心科学アカデミー「保物セミナー2013」事務局宛

〒542-0081

大阪市中央区南船場 3 丁目 3 番 27 号サンエイビル 2 階

Tel. 06-6252-0851 Fax. 06-6262-6525

Eメール：seminar(at)esi.or.jp

HP：http://www.anshin-kagaku.com

## 第 16 回 放射線環境・安全に関する研究会

主催： 特定非営利活動法人 放射線環境・安全カウンスル（RESC）

話題： 福島における市街地除染はどのように行われているのか

要旨： 東京電力福島第 1 原子力発電所事故による環境汚染は広範囲に及んでおり、その対策として除染が進められている。除染はいわゆる除染特措法の枠の中で様々な規制の中で行われている。除染の対象は、森林、農地、河川、住宅、道路、その他、多方面に渡っている。除染方法は、対象ごとに異なる。今回は、福島市の市街地における除染に絞って、除染がどのように行われており、何処まで進んでいるかについて概要を紹介する。

話題提供者： 西澤 邦秀（放射線環境・安全カウンスル）

日時： 平成 25 年 12 月 13 日（金）15:00～17:00

場所： （株）アトックス名古屋分室

名古屋市中区錦 2 丁目 4 番 3 号（錦パークビル 7 階）

参加資格： 特にありません。法人会員以外の方の多くの参加を希望しています。

詳細は放射線環境・安全カウンスルの URL：<http://www.res-council.jp/index.html>

問合せ先；飯田孝夫 e-mail [takao-h-iida\(at\)mediacat.ne.jp](mailto:takao-h-iida(at)mediacat.ne.jp)

## 平成 25 年度 医療放射線防護連絡協議会年次大会（案）

第 24 回「高橋信次記念講演・古賀佑彦記念シンポジウム」の開催

主催： 医療放射線防護連絡協議会

要旨： 当協議会の年次大会は、高橋信次先生の名前と古賀佑彦先生の名前を冠に、毎年 12 月の第 2 週の金曜日に「高橋信次記念講演・古賀佑彦記念シンポジウム」として開催致しております。今回は「放射線被ばくと医療安全\*原発事故の課題から\*」をテーマに開催します。高橋信次記念講演は、長瀧重信先生から、「医療・放射線影響から見た原子力災害」の講演を頂きます。また、午後の「古賀佑彦記念シンポジウム」では、「放射線被ばくとリスクコミュニケーション」をテーマで行い、総合討論においては、今

---

回の「原発事故の課題を医療放射線安全に生かすには」について参加者の皆様と検討します。医療分野を含め他の分野の放射線安全に関わる多くの方々のご参加をお願いします。

日時： 平成 25 年 12 月 13 日（金） 10 時～16 時 30 分

場所： 国際交流研究会館 国際会議場

東京都中央区築地 5-1-1（国立がんセンター内）

（プログラム）10:00-

開催の挨拶： 佐々木康人（医療放射線防護連絡協議会会長）

総合進行： 菊地 透（当協議会総務理事）

1. 教育講演 10:10-11:00（講演時間 40 分）

座 長： 三浦 雅彦（東京医科歯科大学）

演 題： 医療現場で活用できる放射線影響\*低線量放射線を中心に\*

講演者： 鈴木 元（国際福祉医療大学）

2. 高橋信次記念講演 11:00-12:00（講演時間 50 分）

座 長： 佐々木康人（当協議会会長）

演 題： 医療・放射線影響から見た原子力災害

講演者： 長瀧 重信（放射線影響協会）

3. 古賀佑彦記念シンポジウム 13:15-14:45（講演時間：各 20 分）

テーマ： 放射線被ばくとリスクコミュニケーション

座 長： 菊地 透（自治医科大学）

1) 福島第一原発事故に伴う住民の放射線被ばくの現状

桐生 康生（環境省環境保健部 放射線健康管理担当参事官）

2) 放射線被ばくに伴う健康調査\*甲状腺スクリーニングを中心に\*

星 北斗（星総合病院）

3) 「リスクコミュニケーションの向こう側：放射線防護からはじまる健康文化の形成」

大森 純子（聖路加看護大学）

4) 医療被ばくとリスクコミュニケーション：大野 和子（京都医療科学大学）

4. 総合討論： 15:00-16:30

テーマ： 原発事故の課題を医療放射線安全に生かすには

指定発言： 中村 仁信（彩都友誼会病院）

「リスクコミュニケーションが上手くいかない理由」

◆参加費： 5,000 円（懇親会：6,000 円）

◆申込方法： FAX. または Eメールでお申し込みください。

◆申 込 先： 医療放射線防護連絡協議会

〒113-8941 東京都文京区本駒込 2-28-45 日本アイソトープ協会内

Fax： (03)5978-6434 電話：(03)5978-6433（月・水・金） E-mail：jarpm(at)chive.ocn.ne.jp

#### 第 4 回アジア・オセアニア放射線防護会議（AOCRP-4）

本会議は、国際放射線防護学会（IRPA）傘下の地域組織であるアジア・オセアニア放射線防護協議会（AOARP）

---

を基盤とした国際会議として、4年ごとに行われるものです。第1回の韓国／ソウル（2002年）、第2回の中国／北京（2006年）、第3回の日本／東京（2010年）に続き、来年の大会は4回目になります。

場所： Putra World Trade Centre (PWTC)、マレーシア・クアラルンプール

日時： 2014年5月12～16日

Important Datelines：

- 1st Announcement：December 2012
- 2nd Announcement：June 2013
- Abstract Submission：30 Dec 2013
- Full Paper Submission：15 Mac 2014

ホームページ： <http://www.aocrp-4.org/>

### **The 9th International Symposium of NATURAL RADIATION ENVIRONMENT (NRE IX)**

主催： 弘前大学

共催： University of Salzburg (Austria)

National Institute of Radiological Sciences (Japan)

場所： ホテルニューキャッスル

〒036-8354 弘前市上鞆師町24-1

TEL：0172-36-1211、FAX：0172-33-4577

<http://www.newcastle.co.jp/index.html>

日時： 2014年9月23日～26日

重要な日程：

- March 15th 2014           Deadline for abstract submission
- May 15th 2014            Acceptance of the submitted abstracts
- September 26th 2014    Final submission of papers for publications

ホームページ： <http://www.nre9.com>

### **14th International Congress of the International Radiation Protection Association (IRPA 14)**

**“Practising Radiation Protection - Sharing the experience and new challenges”**

日時： 9-13 May 2016

場所： Cape Town International Convention Centre, South Africa.

ホームページ： <http://www.irpa2016capetown.org.za/>

発行・編集：日本保健物理学会編集委員会  
担当：反町 篤行（弘前大）、滝 剣朗（東京大）